

平成28年度 吹田市教育研究大会報告

平成28年11月29日発行 吹田市教育研究大会実行委員会事務局

8月26日(金)に平成28年度吹田市教育研究大会を実施しました。本大会は、市内全ての教職員が一堂に会し、教育委員と顔を合わせ、吹田市の教育の方向性を共通理解する場として平成19年度に始まりました。以降、本大会の形態は変更しながら本年度まで続いています。今年度も「今 吹田から 未来(あす)の力を ～地域に根ざした質の高い公教育の創造～」をメインテーマとし、重点課題である「グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力の育成」をサブテーマに据え、全員参加の講演会を昨年度に引き続き行いました。以下に教育委員のメッセージと講演会の要旨をお伝えします。



〔教育委員メッセージ〕

宮下委員長 (大会開会挨拶)

「グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力」とは、世の中のことに広く関心を持ち、他の人と積極的に関わる中で自分の意見を相手に伝えたり、相手の意見に耳を傾けたりできる力であると私は考えます。子どもたちがよく学べるようにするためには、まず教師が学び続けられるようにする必要があります。校内に学びを最優先する「学びの文化」を創造することが求められているのではないのでしょうか。また、すべて教師が引いたレールの上で授業を進めていくのではなく、子どもの声に耳を傾け、子どもたちに選択を委ねる場面があってもよいのではないかと思います。「子どもの貧困」や「所得と学力」の課題が、大きな社会問題となっております。教育界だけでは解決し得ない課題も、まずは教育現場における子どもたちへの基礎・基本となる知識の定着が問題解決の大きなそして大切な糸口となると考えております。昨年4月から、市長と教育委員会が話し合う場として、「総合教育会議」が開催されております。この「総合教育会議」を通じまして、市長と教育委員会の連帯をより強固なものにいたしまして、教育現場を取り巻く環境の改善・整備により努めたいと考えております。一緒に未来(あす)の吹田の教育を考えていきましょう。

河内委員

リオオリンピックで日本はチーム力によって、たくさんの感動をわたしたちだけではなく、全世界に与えてくれたと思います。子どもたちには、大きな知的好奇心を持って、自分の目標に挑戦する体験を重ねてほしいと思っております。その体験の積み重ねは、現代社会で求められている「自分で考え、判断し、行動できる人間の育成」につながると思っています。目標に向かって挑戦する力を培っていくよう支援していくことが、子どもに関わる皆様や教育委員会への努めであると考えております。未来を担う子どもたちのために、教育委員会も精いっぱい努力します。共に前進してまいります。

谷口委員

学校園医として関わる中で、学校が変わってきている、支援を要する子どもの数が増えていると実感しています。授業の中で教える内容がたくさん増え、その中で現場が大変になり、これからの制度の変革の中で、来年再来年もっと仕事が大変になってくるであろうと思います。日本の学校では職員の80%が先生で残りは、先生をサポートする、学校を維持するのに必要な人たちです。30%の差が子どもに関わる先生方の大切な部分を奪っている気がします。吹田ではそのあたりが少しでも解消・改善されるよう努めていきます。

鈴木委員 (メッセージ代読)

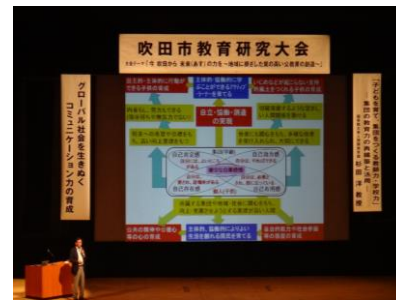
「吹田市・関西大学シンポジウム『大震災のその時に 地域を守る、大学を守る』で自分自身障がい者である垣内 俊哉(かきうち としや)氏は講演で次のように言いました。『障がい者が要望すること、手助けをしてもらいたいと思うことは一人一人によって、またその時によって、異なるのです。』これを聞いて、何もそれは障がい者に限ったことではないのではと思いました。これからも、児童・生徒一人ひとりをしっかり見据えて日々の教育活動に従事して下さることをお願いしまして、メッセージとさせていただきます。』

大谷委員長職務代理者 (大会閉会挨拶)

みなさんのご職業である「先生」「教職」というのは、本当に「人が人を育てる」職業であり、「人が人を成長させる」ことがこんなに素晴らしいことということ、1時間半講演を聞いていて思いました。教育委員として、常日頃学校に訪問して思うことは、素晴らしい職業をされていることよりも本当に先生方が忙しくされており、子どもたちのために何とか教育委員会の方でできないかなと思っていました。チーム吹田として、教育委員会と教員のみなさんと地域と学校が、みんなの力で本当に子どもたちを強く育てられるように、一緒にがんばりましょう。

〔國學院大學人間開発学部 教授 杉田先生 講演会要旨〕

マイケル・オズボーン氏はアメリカの職業はこれから 10 年～20 年の間に約50%が自動化されると提言しています。ICT化は便利であるが、教師もICT化されるとい人もいます。しかし学校教育の強みは人間の強みであると言えます。「人間が人間を教育する」、「人間を人間のなかで育てる」という学校の役割を問うてみる必要があります。企業が求める人材は、「粘り強く、チーム力があり、主体性があり、コミュニケーション力のある」そんな人間を育ててほしいということで、我々には覚悟して資質や能力を育てなければなりません。どこの社会や職場でも自分の思うような気の合う人と出会えることは皆無であり、どんな人とも付き合えるコミュニケーション能力を育てて送ってあげなければなりません。思春期を迎える年ごろの子どもたちは、疑いもせず親や教師の言うことを聞いていた自分の中に疑問を投げかける自分（反抗期・自立の主人公）が生まれます。その子どもたちにどう向き合えるかが重要ではないでしょうか。今の子どもの8割以上は「成功しないものに挑戦しない」と言っています。そんなことでこの世の中を生きていけるのでしょうか。好きなことを見つけてやり通す、潜在能力を見出し、付加価値をつけて送り出すのが我々の仕事と意識しなければならないのでは。義務教育人としてのプライドを持っていただきたい。また、自分に自信を持っている人が少ない現状があり、自尊感情がなければ人は絶対にかんばれません。自尊感情を持たせる教員が一番優秀であると考えています。日本の教育は世界一です。それを支えて精度をあげているのは、汗水たらして働いている皆さんのおかげです。OECDの局長クラスも日本の教育に視点を当てています。これまで世界の国々は知識・技能に特化して行っていたが、それに加えて今後重要となる人格の特性を教育に盛り込もうとしています。答えを見つける授業ではなく、「あなたはどうか考えるのか」、社会に出た時に世の中の問題を自己解決できる力を育てていただきたい。教育は人間と人間の関係で成り立ち、人は人によって人になります。子どもを小手先だけで動かしていないですか。子どもと共に考え、悩み、喜び、笑い、泣くことを忘れていませんか。最後の最後まで先生であり続けなければ、自分がなぜ先生になったか、なぜ今先生をやっているのか。自分が選んだ職業に恥ずかしくないそういう仕事をやってもらいたいと思います。人を大事にできる教員でありますよう、よい教職員人生を送れますよう、それを基に吹田のたくさんの幸せな子どもたちが育ちますよう祈念いたします。



〔研究大会について〕

1.教育研究大会参加者 1382名

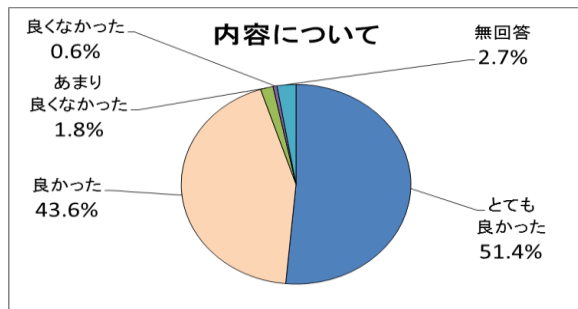
内訳

	幼稚園	小学校	中学校	合計
人数	53人	924人	405人	1382人

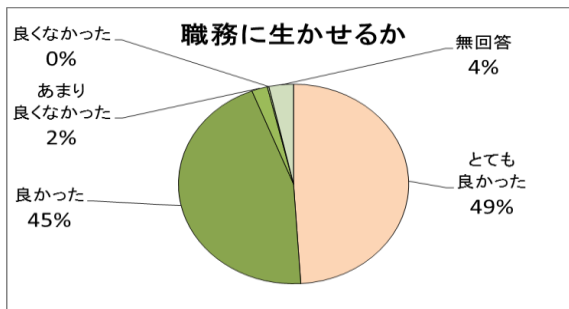
2.アンケートについて

■ 回収数 900通 (回収率 65.1%)

■ 設問



項目	人数
とてもよかった	463人
よかった	392人
あまりよくなかった	16人
よくなかった	5人
無答	24人



項目	人数
とてもよかった	441人
よかった	405人
あまりよくなかった	18人
よくなかった	0人
無答	36人

—参加者の声から—

○縦系だけでなく横系の大切さ、集団の中で（人間の中で）人を育てる重要さ、自分の保育を振り返るきっかけにもなりました。

○未来につながる心を育てることの大切さを改めて感じました。教師は育てることができるすごい仕事だなとしみじみ思いました。

○人が人を作るという言葉で、いかに自主性やコミュニケーション能力が重要だということが分かりました。人を育てることはとても難しいことですが、自身を見直そうと思いました。